

2022年度

カリキュラム編成書

音響制作科

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

作成日： 2022年4月1日

作成者： 酒井 淳

| | |
|-------|-----------|
| 学 科 名 | 音響制作科 |
| コース名 | |
| 所属分野 | クリエイティブ分野 |

(各行は適宜増減のこと)

| | |
|------------------------|---|
| 人材ニーズ | コンサートスタッフとして基本から応用力のある技術と幅広い知識を持った人材が求められる。 |
| | また、音楽や歌唱をレコーディングするエンジニアから放送、映像、映画、DVDなど、あらゆるメディアに対応できるレコーディングエンジニアが求められる。 |
| | |
| 育成人材像 | 舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、 |
| | 舞台音響の総合的な専門知識を持ったオペレータや管理者を育成する。また、音楽や歌唱を |
| | レコーディングするエンジニアに限らず、放送、映像、映画、DVDなど、あらゆるメディアに |
| | 対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。 |
| 主な教育内容 と目標 | 【教育内容】 |
| | ・音響、映像、照明の内容を基本にメディアの特性、創作手法を学び、それに加えてコンサート |
| | スタッフとして、舞台演出、舞台美術、舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学ぶ。また、 |
| | レコーディングの基本から応用まで学ぶ。 |
| | ・実習(学内・校外)を中心にカリキュラム編成を行い、「創る」楽しさを学ぶ。 |
| | ・インターンシップを取り入れ、「現場感覚」を養う。 |
| | 【目標】 |
| | 舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、 |
| | 舞台音響の専門知識を持ったオペレータや管理者として業務に携わることができる。 |
| | 対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。 |
| 目標資格 | 舞台機構調整技能検定3級・2級 |
| | サウンドレコーディング技術認定試験 |
| | ProTools技術認定試験 |
| 目指す職種 | コンサートスタッフ(音響・照明・美術) |
| | TV音声スタッフ |
| | MAミキサー |
| 業界や外部 専門家との 連携体制 | 【現状】 定禅寺ストリートジャズフェスティバル音響アシスタント参加(校外実習) |
| | ジャズプロムナード イン センダイ 音響担当(校外実習) |
| | インターンシップ(東北映像製作社協会主催) |
| | |
| 特長 | 業界との連携した人材教育 |
| | |
| | |
| その他 | 特記事項なし |
| | |
| | |

科目関連図

学科名 音響制作科

作成日：2022年4月1日

| 科目区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|------|-------------|----|-----------|------|-----|----|-----|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 一般科目 | 就職対策 I | | 就職対策 II | | | | | |
| 専門科目 | 電気工学 | | | 卒業研究 | | | | |
| | 音響技術 | | MA実習 | | | | | |
| | レコーディング基礎実習 | | レコーディング実習 | | | | | |
| | PA基礎実習 | | PA実習 | 卒業制作 | | | | |
| | メディア概論 | | | | | | | |
| | DAW基礎実習 | | DAW実習 | | | | | |
| | ビジネススキル | | | | | | | |
| | 映像技術 | | 放送システム | | | | | |
| | 照明技術 I | | 照明技術 II | | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|---|-------------------------|----|---------|---------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 就職対策 I | | | 科 目 分 類 | 独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 1 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | | | |
| 目 的 / 概 要 | 一般常識や適性試験対策を中心に学習する。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学ぶ。 | | | | |
| 到 達 目 標 | 就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につける。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 特になし | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | | ※別紙 就職対策 I (別紙①授業計画) | | | |
| 使 用 教 材 | Webコンテンツ LINESを利用(遠隔授業) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | <ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの学習目標を掴み、時間内に理解できるようにする。 ・理解できなかった所や復習のため、Webコンテンツ・eラーニングを活用し理解度を高める。 ・ノートをきちんと取り、復習や予習に活かす。 ・以上でも解らなかつた所は、Teamsで担任教員に聞き理解できるようにする。 ・(卒業前学年は)履歴書やエントリーシートの書き方を覚える。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・実力試験の成績(年4回実施:ペーパーテスト):60% ・Webコンテンツの回答実績など:授業に取り組む姿勢:40% | | | | |

就 職 対 策 I

作成日：2022年4月1日

< 前 期 >

| 授業 | 教科・ジャンル | 学習内容 | ラインズ・コース |
|----|--------------------|-----------------------------------|----------------------|
| 1 | 数学 オリエンテーション・数の体系1 | 整数・小数の四則演算 | ベーシック |
| 2 | 数学 数の体系1・数の体系2 | ()を使った計算、分数の四則演算 | ベーシック |
| 3 | 数学 数の体系2 | 負の数の四則演算、数の体系、整数の性質 | ベーシック |
| 4 | 数学 単位／組み合わせ・確率 | いろいろな単位、単位当たりの大きさ、百分率 | ベーシック |
| 5 | 数学 単位／組み合わせ・確率 | 平均値・統計・調査 | ベーシック |
| 6 | 数学 量の関係・文字式・関数 | 2つの量の関係、文字を使った式、比例、一次関数・グラフ | ベーシック |
| 7 | 数学 量の関係・文字式・関数 | 方程式・連立方程式 | ベーシック |
| 8 | 数学 累乗・二次方程式 | 平方根、二次方程式の基礎 | ベーシック |
| 9 | 数学 累乗・二次方程式 | 式の展開、因数分解、二次方程式の応用 | ベーシック |
| 10 | 数学 図形 | 図形の基本、面積、体積 | ベーシック |
| 11 | 数学 図形 | 合同・相似、三平方の定理 | ベーシック |
| 12 | SPI非言語 | SPI計算の基礎、SPI非言語出題分野の基礎、演習問題(割合) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 13 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(未知数の計算、特殊な割合の計算) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 14 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(代金の清算、代金の割合) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 15 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(分割払い、損益算) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 16 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(速さ、場合の数、確率) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 17 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(グラフと領域、集合、推論) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 18 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(表の読取、入出力装置) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |
| 19 | SPI非言語 | SPI非言語分野の基礎、演習問題(経路図、資料・長文の読取など) | SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野 |

< 後 期 >

| 授業 | 教科・ジャンル | 学習内容 | ラインズ・コース |
|----|--------------------|---------------------------------|-----------------|
| 1 | 国語 漢字の読み書き | 漢字1～5 | スタンダード |
| 2 | 国語 熟語 | 熟語の構成、熟語、慣用句・反対語・故事成語・ことわざ | スタンダード |
| 3 | 国語 敬語 | 敬語の種類、尊敬語、謙譲語、丁寧語 | スタンダード |
| 4 | SPI言語 | 2語の対応関係、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 5 | SPI言語 | 語句の用法、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 6 | SPI言語 | 語句の意味、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 7 | SPI言語 | 熟語の意味、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 8 | SPI言語 | 熟語の成り立ち、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 9 | SPI言語 | 文章の並べ替え、長文読解、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 10 | SPI言語 | 三文構成、空欄補充、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 11 | SPI言語 | 空欄補充・文、長文の要約、演習問題(言語分野) | SPI解法のテクニック言語分野 |
| 12 | 社会 政治・経済、国際・社会生活 | 経済の仕組み、日本国憲法、世界経済、国民経済と福祉、世界政治等 | スタンダード |
| 13 | 理科 生物 | 植物、動物、消化と吸収、細胞、遺伝 | スタンダード |
| 14 | 理科 気象・地学・天文など | 地層、気象、日本の天気、天体、科学技術と人間、自然と人間 | スタンダード |
| 15 | SPI模擬テスト マークシート | 非言語分野 | マークシート1 |
| 16 | SPI模擬テスト マークシート | 言語分野 | マークシート1 |
| 17 | SPI模擬テスト WEBテストニング | 非言語分野・言語分野 | WEBテストニング1 |
| 18 | SPI模擬テスト テストセンター | 非言語分野・言語分野 | テストセンター・固定 |
| 19 | SPI模擬テスト テストセンター | 非言語分野・言語分野 | テストセンター・IRT |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|---|---|--|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | メディア概論 | | | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | (講義) / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 1 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 1 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | 企業にて下記業務に携わる ・プロジェクト管理(RFP作成支援、システム提案等) ・システム設計(要件定義、基本設計、機能設計、方式設計、移行設計、運用設計、DB設計、詳細設計等) ・システム開発(WebShop、POS/EOS、商品管理、物流等) ・システム保守(HW保守、SW保守) ・HW/NW環境構築、保守(Mainframe、PCサーバ、PC、NW等) PMおよび、PlayingManagerの経験を活かし、インフラおよび、アプリケーションの見地からバランスの取れた教育を行う。 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】マルチメディアは、文字・音声・画像・動画などの情報をデジタル技術で統合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの身近にも浸透してきた。 マルチメディア技術の根幹をなすデジタル端末(コンピュータなど)やその周辺機器やインターネットなど、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、セキュリティ技術、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を修得することを目標とする</p> <p>【概要】マルチメディアの特徴・デジタル端末・コンテンツ制作のためのメディア処理・インターネットと通信・インターネットで提供されるサービス・インターネットビジネス・デジタルとネットワークで進化するライフスタイル・社会に広がるマルチメディア・セキュリティと情報リテラシ。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | 社会や生活の場に必要なインターネットやマルチメディアに関するコンテンツや技術、システムや機器、コミュニケーション技術に関する知識や能力について修得し、マルチメディア検定ベーシックの合格を目指す。 | | | | |
| 目 標 資 格 | マルチメディア検定ベーシック | | | | |
| 前 提 知 識 | 高等学校の程度の知識 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 3 | マルチメディアの特徴:アナログとデジタル・マルチメディアを構成する要素・ヒューマンインタフェース視覚と聴覚 | | | |
| | 3 | デジタル端末:マルチメディアを扱う端末・コンピュータの構成・OS・ポータブル記録メディア | | | |
| | 4 | コンテンツ制作のためのメディア処理:ファイルフォーマット・文書の作成・画像処理・映像や音声の編集と再生・3次元CG・Webページの作成 | | | |
| | 3 | インターネットと通信:インターネットの仕組みと役割・インターネット接続・ブロードバンドネットワーク・モバイル通信 | | | |
| | 3 | インターネットで提供されるサービス:WWW・コミュニケーションサービスやツール・インターネット上で提供されるサービス | | | |
| | 3 | インターネットビジネス:オンラインショッピング・金融サービス・コンテンツ配信・広告とマーケティング | | | |
| | 3 | デジタルとネットワークで進化するライフスタイル:情報家電・テレビと映像コンテンツ・サービスロボット・ゲーム機の変化 | | | |
| | 3 | 社会に広がるマルチメディア:ICカード・街角のマルチメディア・交通・医療と福祉・学術と文化・行政と政治 | | | |
| | 3 | セキュリティと情報リテラシ:セキュリティ・個人情報の保護・知的財産権 | | | |
| | 5 | 基礎:情報(基数変換・BCD、固定小数点数と浮動小数点数)・論理演算 | | | |
| 5 | 映像音響処理技術者資格認定試験:デジタルメディア・コンピュータ基礎問題 | | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 入門マルチメディア(CG-ARTS協会) | | | | |
| 履 修 上 の 意 | ・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | ・定期考査…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|--|--|--|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | ビジネススキルトレーニング | | | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 前期 | 授 業 形 態 | 講義 / (実習) / 演習 |
| コマ数 / 週 | 1 | 総授業コマ数 | 19 | 単 位 数 | 1 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | 企業にて下記業務に携わる ・プロジェクト管理(RFP作成支援、システム提案等) ・システム設計(要件定義、基本設計、機能設計、方式設計、移行設計、運用設計、DB設計、詳細設計等) ・システム開発(WebShop、POS/EOS、商品管理、物流等) ・システム保守(HW保守、SW保守) ・HW/NW環境構築、保守(Mainframe、PCサーバ、PC、NW等) PMおよび、PlayingManagerの経験を活かし、インフラおよび、アプリケーションの見地からバランスの取れた教育を行う。 | | |
| 目 的 / 概 要 | 【目的】「情報倫理」を学習することにより、これからのネットワーク社会を生きていくために、何が正しく何が悪いのかを判断できるような知識を身につけることを目的とする。さらに情報関連科目を学習するために必要なWindowsの基本操作や、Word、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。AIリテラシの修得 【概要】 ・ネットワーク社会で守るべきルールやマナーについて基本的な心構えや注意事項を理解する。 ・アカウントを扱う上での注意事項や、より安全なパスワードの設定方法などを理解する。 ・電子メールやWWW、携帯電話の使用について、マナーや正しい知識、心構えを身につける。 ・セキュリティについて正確な知識を身につける。 ・ネットワーク社会の問題やトラブルについての知識を身につける。 ・ネットワーク社会に関連した法律の知識を身につける。 ・Windowsの基本操作を身につける。 ・Word、PowerPointについて、基本的な操作を身につける。 | | | | |
| 到 達 目 標 | ・ホームページの閲覧方法を知り、検索エンジンを使って必要な情報をインターネットから得ることができる ・学生用グループウェアサービスを知り、それを使ってEメールを利用できる。 ・インターネット社会の「光」と「影」の両面を理解し、説明できる。 ・インターネット社会で守るべきルールやマナーを理解し、説明できる。 ・アカウントやパスワードの取り扱いと管理のしかたを説明できる。 ・個人情報やプライバシーの意義を理解し、その適切な取扱いについて説明できる。 ・著作物の文化的意義を理解し、著作権を尊重する態度を理解し、説明できる。 ・Windowsの基本操作を習得し、操作できる。 ・Wordによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。 ・PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成、アニメーション効果や音響効果を盛り込んだスライド作成ができる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などのついて理解する | | | | |
| 目 標 資 格 | | | | | |
| 前 提 知 識 | ・高等学校の情報科目履修程度の知識 ・マウスの使用、簡単な文字入力 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 2 | ・パソコンリテラシーWindowsの基本操作など | | | |
| | 4 | ・情報倫理:Infoss e-Learning | | | |
| | 4 | ・修了テスト(1~5)は正解率100%取得を目標とする。 | | | |
| | 3 | ・AIリテラシに関する動画の視聴及び関連用語の理解 AIに関連するテーマを設定しグループワーク・成果発表を行うなどアクティブラーニングを実践する。 | | | |
| 1 | ・学生用グループウェアサービス、Eメールの利用 | | | | |
| 5 | ・Office2016/ PowerPoint2016テキスト | | | | |
| 計 | 19 | | | | |
| 使 用 教 材 | ・Infoss e-Learning:情報倫理 ・Office2016/PowerPoint2016テキスト(実教出版) ・Udemy「はじめてのAI」 | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | ・e-Learningは「見ただけ」「読んだだけ」では効果なし！大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をが必要 ・テキストの持参 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・e-Learningの終了テスト ・テキスト課題の提出物 ・授業への取り組み姿勢などで総合的に評価する | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | |
|-------------|--|---|--|------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | |
| コ ー ス 名 | | | | |
| 科 目 名 | 映像技術 | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) | |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 (講義) / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 4 |
| 担 当 教 員 | 八巻 吉市 | 実 務 経 験 | 民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務 | |
| 目的 / 概要 | <p>【目的】放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務のための知識を修得する。同時にポストプロダクション業務に必要な検定資格「映像音響処理技術者」資格認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】 カラーテレビジョンの標準方式とNTSC方式 ・ テレビジョン信号の伝送と放送・ポストプロダクション業務(テレビジョン信号の種類と方式)・ポストプロダクション業務(信号の測定とVTR)・ポストプロダクション業務(テレシネと編集)・検定対策</p> | | | |
| 到達目標 | ・映像音響処理技術者認定試験が合格できる。 | | | |
| 目標資格 | 映像音響処理技術者認定試験 | | | |
| 前提知識 | 電気・電子に関する物理の知識、興味があれば望ましい | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | |
| | 76 | ポストプロダクション業務 ・映像・音声のみ基礎とポストプロダクション ・映像の特徴 ・放送 ・映像信号の成り立ち ・映像信号の記録システム ・様々な用途のデジタル映像 ・映像の編集 | | |
| 計 | 76 | | | |
| 使 用 教 材 | ・担当者作成のプリント ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集 (20××年度版:日本ポストプロダクション協会) | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 映像制作および放送における、信号や機器の理解は必須であるのでしっかり習得すること。 | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|--|---------|------------------------|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 音響技術 | | | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | (講義) / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 3 | 総授業コマ数 | 114 | 単 位 数 | 6 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】音の理論から音響機器の構造や動作、音響機器の取り扱いなどを講義を通して学び、映像音響処理技術者認定試験やサウンドレコーディング技術認定試験の合格をめざす。</p> <p>【概要】音の理論・音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解する。 検定対策</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できること。 ・マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できること。 ・仕事別音響設備が理解できること。 ・各規格を理解し対応ができること。 ・舞台用語が理解できること。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 映像音響処理技術者認定試験・舞台機構調整技能士3級 | | | | |
| 前 提 知 識 | 交流信号などの電氣的知識が多少必要 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | | 19 | 音の理論 | | |
| | | 38 | 音響機器の名称、役割、構造、動作原理、使用例 | | |
| | | 19 | 音響設備・システムについて | | |
| | | 19 | 録音システムと録音手法について | | |
| | | 19 | 舞台機構について | | |
| 計 | | 114 | | | |
| 使 用 教 材 | 舞台音響技術概論 改訂版(兼六館出版) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業は板書するので、ノートを用意すること。 ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|--|--------------------------|---|---------|--------------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 照明技術 I | | | 科 目 分 類 | 独自 / <u>共通</u> |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | <u>講義</u> / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 | 4 |
| 担 当 教 員 | 原 田 建 | 実 務 経 験 | (株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント・舞台照明に従事。 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物照明とディスプレイ照明 ・番組形態舞台形態の違いによる照明の理解 ・番組演出・舞台演出と照明 ・撮影取材の照明 ・舞台機構と安全管理 | | | | |
| 到 達 目 標 | 一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること、合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できること。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 特になし | | | | |
| 前 提 知 識 | 高校までに学んだ、学習内容と一般常識 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 10 | 一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い | | | |
| | 6 | 舞台、テレビの照明設備とその歴史 | | | |
| | 15 | 光と色、視覚について、照明工学、明視論 | | | |
| | 15 | 光源、調光装置と照明器具 | | | |
| | 15 | 舞台、テレビの照明技術の基礎理論 | | | |
| 計 | 76 | 照明デザインと仕込み図の制作、舞台機構と安全管理 | | | |
| 使 用 教 材 | 担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 教科書の内容や板書したり、したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次回の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | 定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | |
|---------|---|------------------|----------------|-----------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | |
| コ ー ス 名 | | | | |
| 科 目 名 | 電気工学 | 科 目 分 類 | 独自 / <u>共通</u> | |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 <u>講義</u> / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 4 |
| 担 当 教 員 | 岩瀬 正則 | 実 務 経 験 | | |
| 目的 / 概要 | <p>【目的】 電気・電子に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。また、音響技術、照明技術、映像技術を履修するために必要な電気工学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 直流の基礎、電力と電気抵抗、磁気の基礎、静電気の基礎、交流の基礎、ダイオードとトランジスタ、トランジスタの発振とスイッチング、電源</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・電気回路の構成、抵抗・電圧・電流の関係、抵抗の接続と電圧・電流の関係を説明できる。 ・電流による発熱作用を理解させ、電力、電力量、発生熱量と温度上昇について考えさせ、消費電力と温度上昇の計算ができる。 ・抵抗率・導電率、抵抗温度係数を理解させ、基本的計算ができるようにし、実際の材料との関係を説明できる。 ・磁気現象と磁気回路の構成の仕方、磁界の強さ、磁束密度、磁曲線、電磁力、電磁誘導作用、電磁エネルギーについて物理現象について説明できる。 ・静電現象について理解させ、静電容量回路の計算ができる。 ・交流の基本的要素、表し方を理解し簡単な回路の計算ができる。 ・ダイオードとトランジスタの基本的動作を説明できる。 ・トランジスタの発振とスイッチングの回路、仕組みについて説明できる。 ・電源の基本的回路を習得し、交流から直流を作る原理を説明できる。 | | | |
| 目標資格 | 第一級特殊無線技士・映像音響処理技術者試験・サウンドレコーディング認定試験 | | | |
| 前提知識 | ・高等学校の数Ⅰ・数Ⅱの一部(連立方程式・三角関数・指数・対数・ベクトル・虚数の基礎的知識)また、電気に関する物理の知識があるほうが望ましい。 | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | |
| | 10 | 直流の基礎 | | |
| | 10 | 電力と電気抵抗 | | |
| | 18 | 磁気の基礎と静電気の基礎 | | |
| | 10 | 交流の基礎 | | |
| | 10 | ダイオードとトランジスタ | | |
| | 9 | トランジスタの発振とスイッチング | | |
| | 9 | 電源 | | |
| 計 | 76 | | | |
| 使用教材 | プログラム学習による電気・電子メカトロ基礎講座1(廣済堂出版) 各章の演習問題プリント[演習・解説プリント] | | | |
| 履修上の意 | <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること。 ・計算が必要になるので、電卓を用意すること。 | | | |
| 成績評価の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | |
|-------------|---|----------------------------|---|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | |
| コ ー ス 名 | | | |
| 科 目 名 | レコーディング基礎実習 | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 前期 |
| 授 業 形 態 | 講義 実習 / 演習 | | |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 |
| 単 位 数 | 2 | | |
| 担 当 教 員 | 川村 武史 | 実 務 経 験 | サウンドクラフト(現エスシーアライアンス) サウンドエンジニア(フリーランス) SUGOサウンドフェス・田沢湖冬季国体開会式 秋田インターハイ開会式の音響プラン世界歌 謡祭スタッフ、仙台市民ミュージカルスタッフ その他スタジオ業務等多数 |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】 ・コードの巻き方、マイクの取り扱い、音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。</p> <p>【概要】 ・コードの巻き方 ・マイクアレンジ ・機器の接続と操作 ・電源の投入 ・レベルの設定・音量の設定・DAWと音響調整卓の接続・バランスと定位・音色加工効果の種類と機器の接続</p> | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイクケーブル等の特殊な巻き方が出来る。 ・マイクの選定とセッティングが正しく出来る。 ・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。 ・適正な音量でスピーカから音が出せる。 ・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。 ・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。 ・各種ケーブル、コネクタの種類とその使用法を修得する。 ・音声信号の種類を理解し、加工調整が出来る。 ・プログラムごとのレベルとバランスがとれる。 | | |
| 目 標 資 格 | サウンドレコーディング技術認定試験 | | |
| 前 提 知 識 | 前期の音響技術 | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | |
| | 2 | 電源の投入 コードの巻き方 マイクスタンドの取り扱い | |
| | 8 | マイクセッティング 機器の接続 | |
| | 4 | レベルの設定 音量の設定 | |
| | 24 | 機器の操作 ミキシング | |
| 計 | 38 | | |
| 使 用 教 材 | 実習プリント | | |
| 履 修 上 の 意 | ・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | |

シラバス

作成日：2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|---|---------------------------|---|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | レコーディング基礎実習 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 後期 | 授 業 形 態 | △講義 / ②実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 1 | 総授業コマ数 | 19 | 単 位 数 | 1 |
| 担 当 教 員 | 梅内 久仁生 | 実 務 経 験 | (財)ヤマハ音楽振興会で音響・録音業務に従事、その後フリーランス。主な仕事内容はPOP-CON、国体、インターハイ、世界フィギア選手権、イベント、CD制作録音 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】 ・音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。</p> <p>【概要】 ・機器の接続と操作 ・電源の投入 ・音楽に対してレベルの設定・音量の設定・DAW設定と音響調整卓の接続・音楽的バランスと定位・音色加工効果の種類と機器の習得</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。 ・適正な音量でスピーカから音が出せる。 ・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。 ・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。 ・各種ケーブル、コネクタの種類とその使用法を修得する。 ・各楽器の音を理解し、各エフェクト調整ができる。 ・楽曲ごとのレベルとバランスがとれる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | サウンドレコーディング技術認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 前期の音響技術 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 13 | DAWと音響調整卓の接続 バランスと定位 音色加工 | | | |
| | 6 | 効果の種類と機器の接続および設定 | | | |
| 計 | 19 | | | | |
| 使 用 教 材 | 実習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | ・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|--|-------------|---|---------|-------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | PA基礎実習(企業連携科目) | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 | 4 |
| 担 当 教 員 | 佐々木 克則 | 実 務 経 験 | イベント・コンサートの企画や運営及び文化施設の運営を行う企業で、音響拡声、録音、管理等の仕事に長年携わってきた経験を活かし実践的な授業を行う。 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】連携企業講師によるPAシステムのセットアップとオペレート及び出演者とのコミュニケーションを学修する。具体的には、事前にオリエンテーションを実施し、企業担当者と授業科目内容及び授業進捗状況から実習内容を決定、実習期間中は、企業担当者を中心に現場担当者が実習に携わる。実習の結果及び学修成果評価については、現場担当者が学生の実習状況を5段階評価し、企業担当者の承認を経て、学科主任に報告する。連携により「理論」と「実務」を学修することができる。学業成果の評価については、企業担当者からの5段階評価及び評価報告内容、学生から提出される実習報告書及び実習レポート内容を評価し、学科主任が総合的に成績を評価する。</p> <p>【概要】</p> <p>①セットアップ(コードの巻き方、スピーカの設置、機器の接続と操作)を学修する。 ②PAミキサーの基本(電源の投入、レベルの設定、音量の設定)を学修する。 ③キュー出し(指示の出し方、タイミング)など現場経験豊かな講師からノウハウを学修する。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | ①マイクケーブル等の特殊な巻き方が短時間で見栄えよくできる。 ②機器(マイク、ミキサー、アンプ、スピーカ)確実に接続できる。 ③ひずみやハウリングのない適正な音量でスピーカから音が出せる。 ④適正レベルでミキシングするための音響調整卓の操作ができる。 ⑤ミキシング操作がスムーズにできるようなキュー出しができる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 舞台機構調整技能士3級、2級(目標) | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 6 | コードの巻き方 | | | |
| | 6 | スピーカの設置法 | | | |
| | 16 | 音響卓の設置と取扱 | | | |
| | 2 | 電源の投入 | | | |
| | 8 | レベルの設定 | | | |
| | 8 | アサインの設定 | | | |
| | 8 | イコライザーの使用法 | | | |
| | 8 | マイクロフォンの使い方 | | | |
| | 6 | 再生機器の使い方 | | | |
| 8 | ホール見学1・2 | | | | |
| 計 | 76 | | | | |
| 使 用 教 材 | 実際の音響機材と音響設備概論等の教科書 | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること。そのために作業時の服装についても考慮したい。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・実技、授業への取り組む姿勢 ・課題レポート ・実技評価 などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日：2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|---|---|----|---------|-------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | DAW基礎実習 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 | 4 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】音楽の基礎的理論を理解し、コンピュータを核としたDAWのソフトウェア(ProTools)で音の加工や編集を行い音を仕上げる技術を学ぶ。また、ProTools技術認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】 ・ツール操作(ProTools技術認定試験対策も含む)・音源の取り込み・編集・効果・録音・作品制作(マスタリングも含む)</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProTools技術認定試験(9月実施)に合格できる。 ・それぞれのツールを理解し、取り込んだ音源を編集して作品を仕上げるができる。 ・映像と音の理解を深める。 | | | | |
| 目 標 資 格 | サウンドレコーディング技術認定試験・ProTools技術認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 2 | DAWの基礎、概念。PC/ProTools操作基礎。 | | | |
| | 4 | DAWの基礎、概念。ProToolsデモ音源を使用した、ProTools操作基礎。 | | | |
| | 6 | ProTools操作基礎。教員が準備した素材を使用した、プラグインの理解。 | | | |
| | 6 | ProTools技能認定試験対策。 | | | |
| | 12 | グループ演習(ProToolsを使用した課題制作)。 | | | |
| | 8 | ProToolsを使用したミックス、マスタリング。 | | | |
| | 20 | 生音バンド音源を使用した、ミックス総合実習 | | | |
| | 10 | 生音バンド音源を使用した、ミックス～マスタリングまでの実習 | | | |
| 8 | 長編映像素材を使用した、楽曲・効果音の編集～整音～完成。 | | | | |
| 計 | 76 | | | | |
| 使 用 教 材 | 2021年度版ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 映像コンテンツには音は欠かせないものですので、映像表現も意識して取り組むこと。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|--|---|----|---------|--------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | MA基礎実習 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 1 | 履 修 学 期 | 後期 | 授 業 形 態 | 講義 / ②実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 酒井 淳 | 実 務 経 験 | | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】ポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学習する。</p> <p>【概要】ポストプロダクションとその設備、ノンリニア編集上でのMA作業を修得する。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・映像音響処理技術者認定試験合格できる。 ・シンプルな映像編集完了映像に音処理ができる。 ・映像に音を付けるとは、何かを理解できる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 映像音響処理技術者認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 14 | MA概論(映像に音を付けるとは何かを演出と心理と共に学ぶ) | | | |
| | 24 | MA作業 (整音、音楽の仕込み、効果音の仕込み、アフレコ、ナレーションの仕込み、ミックスダウン) | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 実習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|--|-----------------------------|----|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 就職対策Ⅱ | | | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 前期 | 授 業 形 態 | (講義) / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 八巻 吉市 | 実 務 経 験 | | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動【エントリーシート作成・履歴書記入・作文・面接試験】支援を目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習 | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 ・ 作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 ・ 入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るよう行動できる。 ・ 面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 特になし | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 8 | エントリーシート、履歴書記入演習 | | | |
| | 10 | 面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習 | | | |
| | 10 | 作文、論文演習 | | | |
| | 10 | 個別面談 | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 常に就職への意識を持って授業に取り組むこと | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般常識実力試験…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日：2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|--|--|---|---------|----------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 放送システム | | | 科 目 分 類 | 独自 / (共通) |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 前期 | 授 業 形 態 | (講義) / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 八巻 吉市 | 実 務 経 験 | 民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)制作技術(撮影、収録、録音)に勤務 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】 ・デジタル時代の放送技術の学習を通して、デジタル伝送、符号化技術、変調方式を学ぶ。</p> <p>【概要】 ・FPU伝送、通信衛星(CS)伝送、光ファイバーネットワークを用いた伝送、公衆回線の放送利用、様々な映像伝送 設備(緊急報道用機材)について学ぶ。 ・デジタル放送システム、デジタル放送方式、データ放送の概要、ネット配信、ワンセグの概要について学ぶ。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・中継 システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)を結びつけて説明ができる。 ・地上デジタル放送とBSデジタル放送の違いを説明できる。 ・高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)をそれぞれ説明できる。 ・伝送路の違いによる変調方式について、説明できる。 ・デジタル伝送方式の種類を説明できる ・データ放送サービスと仕組みを説明できる。 ・ネット配信とワンセグについて、説明できる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 特になし | | | | |
| 前 提 知 識 | 放送システム I、通信工学の知識があれば望ましい。 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 4 | ニュース番組、スポーツ中継、報道中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送) | | | |
| | 2 | 地上デジタル放送とBSデジタル放送の違い | | | |
| | 14 | 高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送) | | | |
| | 14 | 伝送路の違いによる変調方式 | | | |
| | 2 | データ放送サービスと仕組み | | | |
| 2 | ネット配信とワンセグ | | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | 定期考査…80% ・課題評価…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | |
|---------------|--|-------------------|---|---------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | |
| コ ー ス 名 | | | | |
| 科 目 名 | 照明技術Ⅱ | 科 目 分 類 | 独自 / 共通 | |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 |
| 担 当 教 員 | 原 田 建 | 実 務 経 験 | (株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、 (株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、 東北共立本社ではイベント、舞台照明に従事。 | |
| 目的 / 概要 | 【目的】 照明プラン図を理解し、器具つり込み、卓の操作、シュート(配光)の舞台実習を通し、照明効果を学び、イベント照明、音楽照明、芝居の照明などのプラン図を作成し運用することを修得する。 【概要】 ①舞台機構と照明機構と舞台用語の理解 ②各照明器具の取り扱い方の理解 ③イベント照明 ④音楽照明 ⑤芝居(心理描写を表現する)照明 | | | |
| 到達目標 | ①舞台機構、照明機構、舞台用語の修得 ②舞台演目の違いによる照明家の考え方を学び、器具の選定、仕込み作業などを実習を通して修得 ③光と影の効果を理解した上で、色光の効果を修得 ④制作演出との打ち合わせを行い、照明プラン図の作成から実際の運用までの一貫したライティングを行うことを修得 | | | |
| 目標資格 | 公益社団法人日本照明家協会 照明技術者2級 | | | |
| 前提知識 | 1年次に基本的知識を理解していること | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | |
| | 4 | 舞台機構と照明機構 | | |
| | 6 | 器具の種類と運用方法 | | |
| | 6 | 光の方向・角度別の照明効果 | | |
| | 4 | 色光の効果と作り方 | | |
| | 4 | プラン図を理解する | | |
| | 10 | 仕込み作業(器具の吊り込み、設置) | | |
| | 4 | 卓の操作とシュート(配光) | | |
| | 8 | イベント照明の仕込み図作成と運用 | | |
| | 8 | 音楽照明の仕込み図作成と運用 | | |
| 8 | 芝居(心理描写を表現する)照明の仕込み図作成と運用 | | | |
| 14 | 総合演出(イベント・音楽・芝居)に対応した照明の仕込み図作成と運用 | | | |
| 計 | 76 | | | |
| 使用教材 | 担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会) | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。 | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|--|--|---|---------|--------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | レコーディング実習 | 科目分類 | ○独自 / 共通 | | |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 / ○実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 3 | 総授業コマ数 | 114 | 単 位 数 | 6 |
| 担 当 教 員 | 川村 武史 | 実 務 経 験 | サウンドクラフト(現エスシーアライアンス)、サウンドエンジニア(フリーランス)SUGOサウンドフェス・田沢湖冬季国体開会式秋田インターハイ開会式の音響プラン世界歌謡祭スタッフ、仙台市民ミュージカルスタッフ、その他スタジオ業務等多数 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マイクアレンジによる音色の違い、各種音源収録法マルチトラックレコーディングについて学習する。 2. ラジオ番組制作実習を通して、演出スタッフ、進行(アナウンサー・レポーター)スタッフ、技術スタッフのそれぞれの役割と関係を学修する。また、番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 3. テレビ番組における收音法と音処理について学習する。 <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、音色加工と効果付加及びコンピュータアシストミキシングを修得する。 2. ラジオ、テレビ番組の企画、商品たるべきラジオ、テレビのエンターテインメント性、“音楽”と密接な関係であるラジオとテレビの関わり方、タイムキープ、表現力の習得を理解し、レコーディングエンジニアとして、番組制作を行う。 3. 各種番組ごとの收音方法や処理法、番組のテーマや演出、映像にマッチした曲の選曲、効果音の制作、編集する。 | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、ステレオレコーダ及びDAWへの録音ができる。 2. 番組のテーマを音響表現ができる。 3. 制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること、完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がない。 | | | | |
| 目 標 資 格 | サウンドレコーディング技術認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 1年次音響システム(録音概論、音響機器学、音響システム、音響学) | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 19 | マイクアレンジ、マルチトラックレコーディング、トラックダウン、コンピュータアシストミキシング実習 【ラジオ番組制作実習】 番組制作を通じて下記項目を理解する。 ①ラジオ、テレビ番組の企画 ②商品たるべきラジオ、テレビのエンターテインメント性 | | | |
| | 19 | ③音楽のジャンルと録音方法 ④タイムキープ ⑤表現力の習得 | | | |
| | 76 | 【各種番組の收音と処理(選曲、編集、効果音)実習】 (トーク番組・ニュース番組・音楽番組) | | | |
| 計 | 114 | | | | |
| 使 用 教 材 | 各種音源 解説プリント・演習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 高度な録音テクニックを修得するので前提知識を完璧にしておくこと。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|--|------------------------------|---|---------|-------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | PA実習 | | | 科 目 分 類 | 独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 前期 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 6 | 総授業コマ数 | 114 | 単 位 数 | 6 |
| 担 当 教 員 | 梅内久仁生 | 実 務 経 験 | (財)ヤマハ音楽振興会で音響・録音業務に従事、その後フリーランス。主な仕事内容はPOP-CON、国体、インターハイ、世界フィギア選手権、イベント、CD制作録音 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】</p> <p>① 実際の音響システム・セットアップ・音響機器の習得をし、PAペレーション等の習得。</p> <p>② イベントスタッフ(舞台演出・音響・照明)の関わりを理解し、必要な知識・技術を実習と通じて学修する。</p> <p>【概要】</p> <p>① 音響システムプランを作成し、プランに基づき機材準備、セット、チェック、機器の操作を習得及び舞台芸術に対し音響技術学習する。また、舞台機構調整技能検定実技対策実習を行う。</p> <p>② 各内容に応じて音響プランニングをし機材準備から音出しまでする。各スタッフとの連携をしイベントを制作する。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>① 音響プラン・仕込み図作成しそれに従いセット・チェック・機器操作技術の修得。舞台機構調整技能検定実技試験合格すること。</p> <p>② 創作に於いて、スタッフとして役割を果たし、作品クオリティー向上の為、考えて行動出来る様になる事。</p> | | | | |
| 目 標 資 格 | 舞台機構調整技能検定(3級:必須)または(2級:目標) | | | | |
| 前 提 知 識 | 1年次に基本的知識を理解していること | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 15 | 1年次の実習複習及びテレビ、ラジオ収録機器の操作技術修得 | | | |
| | 30 | PAセッティング・機器説明・チェック方法・調整方法 | | | |
| | 9 | 音響測定プラン図を理解する | | | |
| | 24 | 舞台機構調整技能検定対策(実技・要素) | | | |
| | 16 | モニターシステム(フォールドバック)説明・実習 | | | |
| | 6 | イベント音響の仕込み図作成と運用 | | | |
| | 14 | 創作活動 | | | |
| 計 | 114 | | | | |
| 使 用 教 材 | 教科書:舞台音響技術概論 解説プリント・演習プリント・実習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | 機器類は重量も重く、危険も伴うので服装・運搬・取り扱いには十分注意すること。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | ・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|-------------|---|---------|------------------------|---------|------------------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | DAW実習 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 △ 実習 △ 演習 |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 76 | 単 位 数 | 4 |
| 担 当 教 員 | 小野寺 明敏 | 実 務 経 験 | アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】 創作実習を通してDAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】 <ul style="list-style-type: none"> レコーディング、トラック制作、アーティストの発する演奏や歌唱あるいはアレンジを学修する。 録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 必要に応じたオーサリングを学修する。 違う場面との編集による音的な違和感を処理する「クロス・フェード」を上手く掛ける方法などを学修する。 DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。 </p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> DAWを活用した制作過程で創作した作品(映像作品・音声作品)を完成させる。 完成した作品を視聴して、感想等の意見交換を行い、レポートにまとめる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | ProTools技術認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 1年次の音響機器、音響システム、映像システム1が理解できている。 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | | 21 | レコーディング、トラック制作、アレンジ実習 | | |
| | | 12 | 音声波形の編集やミックス、修正実習 | | |
| | | 12 | バウンス実習 | | |
| | | 14 | MA処理実習 | | |
| | | 14 | マスタリング実習 | | |
| | | 3 | 視聴・意見交換 | | |
| 計 | | 76 | | | |
| 使 用 教 材 | 実習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | TV関係の仕事の場合音響技術者といえども映像機器の知識は持っていないなければならない。 | | | | |
| 成 績 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> 課題作品評価(定期考査)…80% 授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|---|-------------------|---|---------|-----------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | MA実習 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 通年 | 授 業 形 態 | 講義 ②実習 ③演習 |
| コ マ 数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 小野寺 明敏 | 実 務 経 験 | 広告及び販売促進関連企業にて、サウンドプロデューサーとして業務を経験。アーティストへの楽曲提供、CM楽曲制作及びMA作業に携わる。 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】いろいろな音源に対する收音方法、メディアへの記録法からポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学修する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガンマイク、ワイヤレスマイクによる取材 ・フルデジタルシステムでの收音・編集 ・5.1サラウンドの收音と記録 ・ポストプロダクションとその設備、VTRの音声編集、テープロックシステムを学修する。 | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ロケーション撮影における、ガンマイクとワイヤレスマイクによる取材ができる。 ・フルデジタルシステムでの收音と編集ができる。 ・映像音響処理技術者認定試験合格できる。 ・ロケーション番組制作における、オンライン編集後のMA処理ができる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 映像音響処理技術者認定試験 | | | | |
| 前 提 知 識 | 1年次の音響機器、音響システム、映像システム1が理解できている。 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 6 | ガンマイクによる取材 | | | |
| | 6 | ワイヤレスマイクによる取材 | | | |
| | 10 | フルデジタルシステムでの收音・編集 | | | |
| | 6 | 5.1サラウンドの收音と記録 | | | |
| 10 | ロケーション番組制作のMA作業 | | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 実習プリント | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | TV関係の仕事の場合音響技術者といえども映像機器の知識は持っていなければならない。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|--|-----------------|--|---------|--------------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 卒業研究 | | | 科 目 分 類 | 独自 / <u>共通</u> |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 後期 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / <u>演習</u> |
| コマ数 / 週 | 2 | 総授業コマ数 | 38 | 単 位 数 | 2 |
| 担 当 教 員 | 小池 悟志 | 実 務 経 験 | 民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したコンサートスタッフに関する内容を自ら深く掘り下げ、情報収集、研究する。また、コンサートスタッフに関する研究テーマを決めて、自学することを学修する。 研究結果を発表し、プレゼンテーションスキルを身につける。 <p>【概要】</p> <p>研究テーマを決めて、調査研究を行い、それをレポートのまとめ、その結果を研究発表する。また、グループ活動を通して、個々の知識のレベルアップを図る。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについて、収集した情報を整理できる。 研究テーマについて、考察ができ、レポートにまとめることができる。 研究内容をプレゼンテーションができる。 | | | | |
| 目 標 資 格 | 特になし | | | | |
| 前 提 知 識 | 特になし | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 10 | レポート・論文作成法 | | | |
| | 20 | 研究テーマ決め、情報収集、研究 | | | |
| | 8 | プレゼンテーション | | | |
| 計 | 38 | | | | |
| 使 用 教 材 | 担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | <ul style="list-style-type: none"> まとめ用のノートを用意すること。 これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査…80% ・課題評価…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |

シラバス

作成日:2022年4月1日

| | | | | | |
|---------------|---|---------------------------------------|---|---------|-------------------------|
| 学 科 名 | 音響制作科 | | | | |
| コ ー ス 名 | | | | | |
| 科 目 名 | 卒業制作 | | | 科 目 分 類 | ①独自 / 共通 |
| 履 修 年 次 | 2 | 履 修 学 期 | 後期 | 授 業 形 態 | 講義 / 実習 / 演習 |
| コマ数 / 週 | 8 | 総授業コマ数 | 152 | 単 位 数 | 8 |
| 担 当 教 員 | 梅内久仁生 | 実 務 経 験 | (財)ヤマハ音楽振興会で音響・録音業務に従事、その後フリーランス。主な仕事内容はPOP-CON、国体、インターハイ、世界フィギア選手権、イベント、CD制作録音 | | |
| 目 的 / 概 要 | <p>【目的】 1.2年間の集大成として、それぞれ学んだ知識、技術を活かし「もの創り」を学修する。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、イベント制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 2.舞台機構調整技能士検定合格</p> <p>【概要】 1. 作品制作(グループ制作) 具体的作品:テレビ番組・ラジオ番組・音響作品・音楽作品・ステージイベント作品など 2. 舞台機構調整技能士3級合格者対象に2級合格のための対策授業を行う。</p> | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>【作品の企画、構成内容を理解し、システムプランができる】 【作品の企画内容を舞台、照明、音響で具体化することができる。】 【レコーディングエンジニアの立場で他のスタッフと関わりを持ち、それぞれのポジションを理解し、制作をスムーズに進行できる】 【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】 【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】 【舞台機構調整技能士2級合格】</p> | | | | |
| 目 標 資 格 | 舞台機構調整技能検定(3級:必須)または(2級:目標) | | | | |
| 前 提 知 識 | 2年間学んだ専門知識を理解できている 舞台機構調整技能士3級合格 | | | | |
| 授 業 計 画 | コマ数 | 授 業 内 容 | | | |
| | 95 | 作品制作(テレビ番組・ラジオ番組・音響作品・音楽作品・イベント、ステージ) | | | |
| | 57 | 舞台機構調整技能士2級対策授業 | | | |
| 計 | 152 | | | | |
| 使 用 教 材 | 担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版) | | | | |
| 履 修 上 の 意 注 | <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 | | | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査…80% ・課題評価…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。 | | | | |